

# “一人じゃないよ” 災害の経験通し母親を孤立させない社会へ

増淵さんが代表を務める「シンママ熊本応援団」や尚綱大学短期大学部幼児教育学科にも、中村さんと園木さんを招き、みそ作り教室を行うなど、互いに協力して活動を行っています



中村あゆみさん(43)  
調理師として働いていた経験を生かし、「よかあなばいJAPAN」でみそ作り体験や地域食堂など、食を通した活動を行っている。2児の母。



園木ひとみさん(48)  
元小学校教諭。「よかあなばいJAPAN」では、学校と家庭のかけ橋的存在。地域を盛り上げる活動にも参加中。2児の母。



増淵千保美さん(48)  
尚綱大学短期大学部幼児教育学科長、教授。「シンママ熊本応援団」の活動を通して、女性と子どもの人権が守られる社会づくりに取り組んでいる。

熊本地震をきっかけに女性や子どもの支援に取り組む「シンママ熊本応援団」代表の増淵千保美さんと、「よかあなばいJAPAN」代表の中村あゆみさん、副代表の園木ひとみさん。熊本地震発災当時と今後の復興過程で見えてきた課題や今後の方向性について話を聞きました。

## 熊本地震で痛感した 女性や子ども支援の必要性

—熊本地震の際にはどのような活動をしていましたか。

**増淵** 小学校の避難所運営にボランティアとして、個人で携わっていました。そこで目の当たりにしたのが、保育園が休園となり、子どもを避難所に置いて仕事に行かなければならないひとり親家庭の現状です。中には「子どもを置き去りにして」と心無い言葉を投げかける人もいて、もどかしい気持ちでいっぱいでした。復興に向かう過程においても、元々生活基盤が脆弱で自立が難しい傾向にあるひとり親世帯、特にシングルマザーと子どもが抱える問題が浮き彫りとなり、その課題や悩みに寄り添いたいと、地震から1年後、仲間と共に「シンママ熊本応援団」を立ち上げました。

**中村** 私たちは「地域食堂よりどこ」を地震の5日前にオープンしたばかりで、地震後は食堂で炊き出しを行う日々。地震から1カ月たっても余震が続き、児童館は閉まっている状況でした。自身の子どもの遊び場に困り、だつたら集える場をつくろうと、月に1

回のマルシェを発災直後の5月からスタートさせました。飲食ブースやおもちゃ広場、ミュージカルなどのステージを準備。参加者同士で盛り上がり、「久しぶりに家族以外の人と話せてうれしかった」と、とても好評でした。

—現在はどんな活動を行っていますか。

**増淵** 地震の際、一人で頑張るシングルマザーを見て、地域や周囲とのつながりの薄さが課題であると感じました。私自身、幼少期は親が病気がちで地域の人々に支えてもらいながら、育ってきました。「一人じゃないよ」というメッセージを届けたくて現在は県内全域のシングルマザーを対象に、相談対応、行政窓口などへの同行支援、子どもの野外活動や健康維持のためのヨガ教室などを行っています。また月に一回の支援物資「しあわせBOX」も約65世帯へ直接、届けています。実家から定期的に送られてくる荷物という感覚で、精神的安定につながっているという声をいただいています。

**園木** 子育て支援を軸に、地震前から行っていたみそ作りのワークショップを継続して実施しています。「地域食堂よりどこ」も月に一回開いています。「ここに来ればどきやんかなる」と

## 子育て中の母親たちが一息つける場 みたいという思いは今も変わりません。 みんなで子どもを見守る ネットワーク構築を

—活動から見た課題はありますか。

**増淵** 私は大阪出身ですが、熊本の女性は何んて我慢強いんだと感じています。性別で役割を分担する意識が根強く、家事育児など、何でも母親が背負っている家庭が多い印象を受けました。こうした意識は災害時に顕著に表れます。平時から「父ちゃんがいなければ、その代わりを私たちがするよ」と地域の人々が声をかけ、シングルマザーの肩が抜けるような社会をつくっていききたいですね。

**園木** 確かに、母親が頑張らなきゃいけないという社会の風潮はあるかもしれない。子どもに勉強をさせないといけない、習い事をさせないといけない、自分は料理も掃除も片付けもしないといけない、「やらなければならぬ」に縛られて、周囲に頼れず苦しんでいる母親は多いと思います。平時から、「子どもをちょっと見ていて」に応えられる環境が地域の中でできていれば、災害時も自然と協力し合えるのではないのでしょうか。

—今後の目標や課題解決に向けた取り組みについて教えてください。

**中村** 家庭内で母親に何でも頼り過ぎる傾向を解消していきたいですね。料

理に関しては、ご飯やみそ汁ともう一品くらいを子ども自身が作れるように「百炊塾」を開きたいと考えています。ちょっとした料理を作れるようになれば、子どもたちも自信がつくし、生きる力にもつながっていくと思うんです。

**園木** 私個人としては、さまざまな事情で学習塾に通えない子どもの学習支援を地域でできたらいいなと考えています。熊本地震では、大きな揺れに心の不安を抱える子どもたちが多くいましたよね。そういった不安な気持ちに気付いて、私たち大人がサポートできるように、日頃から勉強の相談はもちろんです。雑談したり、悩みを吐き出したりできる場があることは、孤立しがちな状況の子どもたちにとって大切なことじゃないかなと思います。

**増淵** シングルマザーが避難所から家へ片付けに行くとき、仕事に行くときなど、災害時に地域のボランティアや私たちのような専門的に支援を行っている団体が連携して、子どもたちを預かる体制を早急に作ることに第一。一人に生活がかかっているシングルマザーにとつて、その支援の有無は大きいと思います。私たちは地震というつらい経験をしましたが、災害の経験を通して、知恵を出し合える仲間や団体と出会うことができました。活動を行う中で困難なことがあっても、みんなで支え合って乗り越えていきたいです。

### 活動紹介

#### よかあなばいJAPAN

みそ作りのワークショップ  
紙芝居で子どもたちにも分かりやすく説明します



熊本地震の際に開催したマルシェでは、ミュージカルやちんどんやなど、月替わりでさまざまなステージを行いました



「地域食堂よりどこ」には、親や子もたけてなく、地域の人々も足を運んでいます

### 活動紹介

#### シンママ熊本応援団

子ども自身で自炊ができるようにと炊飯器を使った子ども料理教室を開催



子どもたちへ自然に触れる機会を提供したいと行っている野外活動



しあわせBOXの発送作業。毎回送る5キロのお米が、生活支援につながり喜ばれている